

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2026 No. 1

(通巻 Vol. 66 No.1)

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2026 No. 1
(通巻 Vol. 66 No.1)

目次

巻頭言（会長挨拶）	1
「研究、頑張ってる？」—藤田實先生を偲んで	4
2026 年度シェイクスピア祭報告	7
2026 年度日本シェイクスピア協会奨励賞	8
2026 年度日本シェイクスピア協会委員選挙のお知らせ	9
第 64 回シェイクスピア学会のお知らせ	10
第 65 回シェイクスピア学会セミナーテーマ募集のお知らせ	10
協会ホームページ掲載内容に関するお知らせ	11
協会ホームページ内「会員限定ページ」に関するお知らせ	11
2025 年度決算報告・2026 年度予算案	12
2025 年度シェイクスピア基金会計報告・2025 年度日本シェイクスピア協会 国際交流資金会計報告・2025 年度懇親会費会計報告	13
日本シェイクスピア基金へのご寄附について	14
国際交流フェローシップ募集のお知らせ	14
日本シェイクスピア協会 X（旧 Twitter）について	14
NOTICE BOARD	15
日本シェイクスピア協会賛助会員名簿	17

巻頭言

佐藤 達郎

本年6月、日本のシェイクスピア受容に大きな足跡を残された小田島雄志先生が逝去されました。日本シェイクスピア協会を代表いたしまして、謹んで哀悼の意を表します。小田島先生は本協会の立ち上げにも深く関わられ、1977年に刊行された最初の記念論文集『シェイクスピアの演劇的風土』では編集委員も務められました。本協会の今日に至る歩みを振り返るとき、その礎を築かれたお一人として、先生のご尽力を忘れることはできません。

小田島先生は、シェイクスピアの全戯曲を個人で翻訳するという大業を成し遂げられ、その卓越した言語感覚に支えられた平明で生き生きとした日本語訳は、多くの人々にとってシェイクスピアをより身近な存在にしました。とりわけ、1975年に渋谷の小劇場ジャンジャンを拠点として始まった、出口典雄氏率いるシェイクスピア・シアターによる小田島訳の連続上演は、1981年にシェイクスピア全37作品の上演という偉業を達成しました。小田島訳は、それまで古典として距離を感じられることもあったシェイクスピアと若い世代との距離を一挙に縮めました。こうした広がりの中で、いくつかの私立大学にはシェイクスピア劇を専門に上演する演劇サークルも生まれました。小田島訳やそれを用いた舞台をきっかけとしてシェイクスピアの世界に入り、やがて研究者となった本協会の会員も少なくありません。その意味でも、小田島先生はシェイクスピアを広く社会に伝えただけでなく、次の世代の研究者を生み出す大きな力ともなり、今日の日本におけるシェイクスピア研究の広がりを支えてこられたといっても過言ではありません。その多大なご功績に改めて深い敬意と感謝を捧げ、心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、去る4月26日(日)、2026年度シェイクスピア祭が日本女子大学において開催され、盛会のうちに無事終了いたしました。当日は多くの皆様にご参加いただき、シェイクスピアをめぐって研究と創作という異なる立場からお話をうかがう、たいへん充実した1日となりました。

第1部では、元日本シェイクスピア協会会長の河合祥一郎氏にご講演いただきました。近年、シェイクスピアとの共作の可能性が注目されている『ファヴァンシャムのアーデン』を取り上げ、この作品をシェイクスピアの正典に加えることの是非をめぐって、「シェイクスピアらしさ」とはそもそも何なのかという根源的な問題を追究されました。長年シェイクスピア研究を牽引してこられた河合氏ならではの、たいへん刺激的なご講演でした。

第 2 部では、漫画家の菅野文氏をお迎えし、『薔薇王の葬列』シリーズとシェイクスピア」と題してお話いただきました。『ヘンリー六世』3 部作と『リチャード三世』を大胆に読み替え、独自の作品世界を作り上げた『薔薇王の葬列』について、シェイクスピアとの出会いから、登場人物の造形、原作から何を受け継ぎ、何を新たに創り出したのかに至るまで、創作家ならではの貴重なお話をうかがうことができました。研究者が作品を「読む」のとはまた異なる、創作者がシェイクスピアを受け止め、そこから新たな作品を生み出していく過程に触れることのできた、たいへん興味深いひとときでした。聞き手を務められた松山響子氏も、菅野氏のお話を巧みに引き出され、充実した対談となりました。

ご登壇くださった河合祥一郎氏、菅野文氏、松山響子氏、そしてご来場くださった皆様に、心より御礼申し上げます。

ここからは、本協会の今後の活動に関わる 3 点についてお知らせいたします。

まず、会費の支払い方法についてです。「シクミネット」を活用した新たな会費の支払い方法等については、すでに 6 月下旬に事務局からのメールで詳細をお知らせしております。会員の皆様にはこれまで多大なご協力をいただき、おかげさまで大きなトラブルもなく、順調に運用することができております。まだ支払い方法の登録を済ませていない方は、これまで協会にメールアドレスをお知らせいただいていない方も含め、ぜひ登録手続きをお済ませくださいますようお願いいたします。なお、10 月 3 日、4 日に開催される学会の懇親会についても、従来とは異なり、「シクミネット」を通じてお申し込みいただくことになります。詳細につきましては、学会プログラムにてご案内いたします。

次に、学生会員に対する旅費助成についてです。近年の物価高騰、とりわけ交通費や宿泊費の上昇は、学生会員が学会等に参加するうえで少なからぬ負担となっています。そこで本協会では、本年度より、学生会員の研究発表やセミナーへの参加を支援するため、シェイクスピア学会（研究発表、セミナー）に参加する学生会員を対象とした旅費助成制度を設けました。申請の締め切りは当該年度の 10 月末日となっておりますので、該当する方はぜひ積極的にご活用ください。制度の詳細については、本協会ホームページに掲載されている *Shakespeare Newsletter*, Vol. 65, No. 2, pp. 29-30 をご参照ください。

最後に、本協会創立 65 周年を記念する論文集についてお知らせいたします。会員の執筆による 65 周年記念論文集『シェイクスピアの様々な相貌(かお)』が、研究社より本年 9 月下旬に刊行される予定です。5 名の編集委員のご尽力により、刊行の運びとなりました。1977 年に刊行された『シェイクスピアの演劇的風土』以来、本協会では 5 年ごとに記念論文集を刊行してまいりました。本書は

その歩みに連なる11冊目の論文集となります。シェイクスピアとその時代の文学をさまざまな角度から捉えた論考を収め、現在のシェイクスピア研究の多様な広がりを示す1冊となっています。ぜひ多くの皆様にお手に取っていただければ幸いです。

本年度の第64回シェイクスピア学会は、2026年10月3日(土)、4日(日)の2日間にわたり、筑紫女学園大学にて開催されます。学会担当委員の皆様、ならびに開催校の高森暁子氏をはじめとする関係者の皆様のご尽力により、開催に向けた準備も着々と進められています。この場を借りて、あらためて心より御礼申し上げます。実り多い2日間となることを願うとともに、筑紫女学園大学で多くの会員の皆様とお会いできますことを、心より楽しみにしております。

「研究、頑張ってる？」―藤田實先生を偲んで

吉村 征洋

藤田實先生が大阪大学から関西大学に赴任されたのは、私がちょうど大学に入学した時であった。大学院に進学後、先生にはシェイクスピア研究の手ほどきから学会発表、論文執筆に至るまで、長年にわたってご指導いただいた。振り返れば、研究者として歩み始めた私の傍らには、いつも藤田先生の温かな笑顔と、「研究、頑張ってる？」という穏やかな声があった。

藤田先生は、実に温厚な方であった。大学でお目にかかる、いつもにこやかに声をかけてくださった。先生が声を荒らげたり、怒りをあらわにされたりする姿を、私は一度も見たことがない。しかし、ひとたび授業が始まり、とりわけシェイクスピアのテキストを前にすると、その表情は一変した。眼光は鋭さを増し、一つ一つの語句を丹念に検討しながら、私たち大学院生が見過ごしてしまうような箇所から、作品の新たな意味を鮮やかに引き出された。普段の穏やかな佇まいと、研究に向き合うときの厳しさとの対照は、今も強く印象に残っている。

藤田先生が繰り返し語られていた言葉を、私は今でもよく覚えている。「シェイクスピアは、あなたが探している答えをテキストの中に書いてくれている。だから、答えを探すためにはテキストを徹底的に読みなさい。細部にこだわって、テキストの言葉を読み解きなさい。」先生が教えてくださったのは、単なる精読の技法ではなかった。あらかじめ用意した解釈に作品を当てはめるのではなく、まずテキストが何を語っているのかを謙虚に問い続けること。それこそが研究の出発点であると、先生は授業を通して示してくださった。

先生の授業では、見慣れたはずの一語や一行が、思いがけない問いへとつながっていった。小さな違和感を見逃さず、そこから作品全体を捉え直していく先生の読みは、シェイクスピア研究の奥深さを私たちに実感させるものであった。私が今も研究において大切にしているのは、結論を急ぐことなく、テキストに立ち返り、そこから問いを育てていく姿勢である。それは、藤田先生から受け継いだ、かけがえのない研究の作法である。

その一方で、藤田先生の授業には、先生をご存じの方なら思わず頬を緩めるような場面もあった。熱心にテキストを解説されていた先生のお話が、ふと途切れる。見ると、先生は目を閉じ、静かに眠っておられるのである。私たち院生は互いに目を合わせ、声を立てないよう微笑んだものだった。ところが、しばらくして先生が目を開けられると、何事もなかったかのように、眠りに入る直前の話の続きを始める。その正確さには、毎回驚かされた。先生の内側では、眠っている間にもシェイクスピアと

の対話が続いていたのではないか。今となっては確かめようもないが、あの不思議で愛らしいお姿もまた、先生を慕う多くの人々の記憶に残り続けることだろう。

私が学会や研究会で発表する際には、先生は原稿を何度も読み、細部に至るまで丁寧に確認してくださった。質疑応答の際に私が返答に窮していると、さりげなく助け船を出されることもあった。発表を終えて安堵すると同時に、先生が会場にいることの心強さを何度も感じた。論文指導でも、先生は私の拙い原稿を辛抱強く読み、いつも的確な示唆をくださった。ただし、先生は修正すべき箇所を直接示して、「ここをこう直しなさい」と命じるような指導はなさらなかった。「こういう考え方もできるのではないかな」「もう少しここを考えてみたらどうだろう」と、いつも控えめに、間接的に語られた。院生だった私は、正直なところ、直すべき箇所をもっとはっきり教えてほしいと思うこともあった。しかし後になって、先生は答えを与えるのではなく、自分の力で問題に気づき、考え、言葉を選び直すよう促していたのだと分かった。先生の穏やかな言葉の背後には、研究者として自立することを求める、静かで厳しい教育的信念があったのである。

論文指導のため、先生のお宅に伺うこともしばしばあった。廊下や階段にまで積み上げられた膨大な書籍を目にしたとき、研究者であるということは、生涯にわたって勉強し続けることなのだと、圧倒される思いがした。指導が夜遅くまで及ぶと、先生は「ご飯を食べながら、ビールでも飲もうか」とよくおっしゃった。奥様の手料理をごちそうになり、ビールを片手にシェイクスピアについて語り合った時間は、私にとってかけがえのない思い出である。近所の蕎麦屋で、冷酒と蕎麦屋のあてを味わい、最後に蕎麦で締めるという粋な飲み方を教えていただいたことも忘れられない。研究上の師である先生と、酒席では肩の力を抜いて語り合える。そのような先生の懐の深さが、若かった私には何よりありがたかった。

関西大学を退職された後も、先生は大学の近くにあった大阪洋書の一角で輪読会を定期的に行ってくださった。大学という場を離れても、テキストを読むこと、シェイクスピアについて議論することへの情熱は変わらなかった。先生にとって研究とは、職業上の義務ではなく、生きることそのものだったのだと思う。さらに私生活においても、先生ご夫妻には大きなご恩を受けた。私が結婚する際には、奥様とともに仲人を務め、私たちの門出を祝ってくれた。研究者としてだけでなく、一人の人間として私を見守り、人生の節目に立ち会ってくださったことに、改めて深い感謝を覚える。

藤田先生から教わったことは数え切れない。しかし、その中心にあったのは、言葉に誠実であること、人を急かさず、その人自身が答えにたどり着くのを辛抱強く待つこと、そして学問を心から楽しむことだったように思う。先生の「研究、頑張ってる？」という声は、今も折に触れて私の耳によみがえる。その問いかけに胸を張って答えられるよう、これからもテキストの細部に向き合い、研究を続けていき

たい。

藤田先生、長年にわたる温かく、そして厳しいお導きに、心より感謝申し上げます。先生の教えと数々の思い出は、これからも私の研究と人生の中に生き続けます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2026 年度 シェイクスピア祭 報告

2026 年度シェイクスピア祭を、日本英文学会との共催で、4 月 26 日(日)に日本女子大学目白キャンパス 百二十年館 B1 階 12001 教室にて開催しました。

当日の催しの内容は、次の通りです。

13:00 開会の辞 佐藤 達郎(日本シェイクスピア協会会長・日本女子大学教授)

13:10 講演 河合祥一郎(日本シェイクスピア協会元会長)

『『ファヴァシヤムのアーデン』をシェイクスピアの正典に加える問題をめぐって』

*** 休憩 ***

15:00 トーク 菅野 文(漫画家)

『薔薇王の葬列』シリーズとシェイクスピア

聞き手 松山 響子氏(駒沢女子大学教授)

16:30 閉会の辞 阿部 公彦(日本英文学会会長・東京大学教授)

ご登壇いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、会場の提供をお引き受けいただきました佐藤達郎先生(日本女子大学教授)はじめ、本催しの企画と運営に尽力された皆様に、心より感謝いたします。

(行事担当委員:松山響子)

2026 年度 日本シェイクスピア協会奨励賞

2026 年度日本シェイクスピア協会奨励賞につきまして、本年度の受賞論文はありません。

Shakespeare Journal および *Shakespeare Studies* 掲載の論文のうち、締め切りの段階で 37 歳未満であるか、または修士号取得後 5 年以内で、過去にシェイクスピア協会奨励賞を受賞していない会員によるものが、次年度の日本シェイクスピア協会奨励賞の選考対象となります。

本年度は残念な結果となりましたが、若手研究者の皆様には両誌への投稿をもって学会活動を活発化し、けん引していただきたくお願い申し上げます。

2026 年度日本シェイクスピア協会委員選挙のお知らせ

委員候補者推薦会議

篠崎 実(議長)

高森 暁子

冬木 ひろみ

由井 哲哉

既にお知らせしております通り、本年 9 月末から 10 月に委員選挙が行われます。今回の選挙に係わる業務は「委員選挙に関する内規」に従い、委員候補者推薦会議が協会事務局の協力を得て実施いたします。

先般 3 月に委員候補の推薦をお願いいたしましたが、その後 7 月 4 日(土)の会議を経て、11 名の候補者が確定いたしました。9 月 24 日(木)～10 月 23 日(金)に開催される選挙はオンライン選挙となりますので、9 月 24 日に送信されるメールにて候補者名簿をご確認の上、そこに記載された投票要領に従ってご投票ください。オンライン選挙が難しい方には郵便投票も受け付けますので、郵便投票をご希望の方は 10 月 2 日(金)までに事務局にご連絡ください。結果発表は 11 月初旬に速報をホームページに掲載し、次期会長決定後に全会員宛にハガキで通知いたします。

第 64 回シェイクスピア学会のお知らせ

2026 年 10 月 3 日(土)・4 日(日)

筑紫女学園大学(福岡県太宰府市)にて開催

懇親会の参加には事前申し込みが必要です。詳細は会員に送付予定の学会プログラムをご覧ください。

*** 宿泊の確保は、早めのご手配をお勧めいたします。**

第 65 回シェイクスピア学会セミナーテーマ募集のお知らせ

第 65 回シェイクスピア学会は、2027 年 10 月 2 日(土)・3 日(日)に青山学院大学(東京都渋谷区)にて開催予定です。本学会でのセミナーのテーマを下記のように募集いたします。ふるってご応募ください。

応募要項

- 次の(A)、(B)について(片方でも可)、E メールにてご応募ください。
 - セミナーで取り上げて欲しいテーマ
(コーディネイター名も、もしあればお書きください)
 - ご自分で企画・運営したいセミナーとそのテーマ
- 締切は **2026 年 10 月 31 日(土)正午**です。
- ご提案を含めて委員会で検討のうえ、セミナーを複数設定いたします。
- セミナーの内容・セミナーメンバー募集については、2027 年 3 月までに *Shakespeare Newsletter* やホームページでご案内します。
- メール送付先は以下のとおりです。
日本シェイクスピア協会学会担当小委員会:ssj-conference@nifty.com
(標題に「2027 セミナーテーマ案」と記してください)

協会ホームページ掲載内容に関するお知らせ

以下については、日本シェイクスピア協会ホームページをご覧ください。ご要望をお伝えいただければ、プリントアウトをお送りします。

規約全文、シェイクスピア祭報告詳細、学会セミナー報告、
シェイクスピア・ワークショップ報告、国際交流フェローシップ応募要項、
Shakespeare Studies 投稿規程、*Shakespeare Journal* 投稿規程、
日本シェイクスピア協会奨励賞規程、入会案内。

協会ホームページ内「会員限定ページ」に関するお知らせ

日本シェイクスピア協会では、2021 年 8 月より協会ホームページ内に会員限定のページを開いたしました。

会員限定ページは毎年 7 月に更新するアクセスパスワードで管理され、このページには協会が催すオンライン行事のアクセス情報など、会員限定の情報を随時掲載してまいります。2026 年度のパスワードにつきましては、当該年度会費納入会員にお知らせしております。会費を納入済みにもかかわらず通知が届いていない方は、事務局までお問合せください (info@sj.org)。

2025 年度 決算報告(2026.3.31)

【収入の部】		
会費	¥	3,319,000
雑収入		87,569
シェイクスピア祭共催金		25,000
(日本英文学会)		
学会協賛金(助成金)		0
学会時書店出店料		0
(賛助会員以外)		
小計	¥	3,431,569
前年度繰越金	¥	8,691,027
合計	¥	12,122,596
(収入計+繰越金)		

【支出の部】		
総会費	¥	8,152
<i>Shakespeare Studies</i>		304,649
(発送料金含む)		
<i>Shakespeare Journal</i>		297,152
(NL 関連/発送料金含む)		
シェイクスピア祭		77,351
シェイクスピア学会		578,079
(小委交通費含む)		
奨励賞		0
委員会費		0
事務局経費		26,030
HP 運営費		47,300
(管理費含む)		
事務局人件費		631,197
一般印刷費		105,280
通信郵送費		213,158
交通費		385,104
委員選挙費用		23,243
消耗品費		32,290
予備費		0
小計	¥	2,728,985
基金への繰入れ	¥	1,000,000
次年度への繰越金	¥	8,393,611
合計	¥	12,122,596
(支出計+繰入金+繰越金)		

2026 年度 予算案(2026.4.26)

【収入の部】		
会費	¥	3,150,000
雑収入		50,000
シェイクスピア祭共催金		0
(日本英文学会)		
学会協賛金(助成金)		0
学会時書店出店料		0
(賛助会員以外)		
小計	¥	3,200,000
前年度繰越金	¥	8,393,611
合計	¥	11,593,611
(収入計+繰越金)		

【支出の部】		
総会費	¥	20,000
<i>Shakespeare Studies</i>		350,000
(発送料金含む)		
<i>Shakespeare Journal</i>		400,000
(NL 関連/発送料金含む)		
シェイクスピア祭		80,000
シェイクスピア学会		450,000
(小委交通費含む)		
奨励賞		35,000
委員会費		10,000
事務局経費		60,000
HP 運営費		50,000
(管理費含む)		
事務局人件費		635,000
一般印刷費		100,000
通信郵送費		250,000
交通費		310,000
委員選挙費用(引当金)		75,000
消耗品費		50,000
予備費		50,000
小計	¥	2,925,000
基金への繰入れ	¥	600,000
次年度への繰越金	¥	8,068,611
合計	¥	11,593,611
(支出計+繰入金+繰越金)		

〔註〕NL=Shakespeare Newsletter の略

2025 年度 シェイクスピア基金

会計報告(2026.3.31)

【収入の部】

前年度繰越金	¥	7,926,558
寄付		120,000
海外団体著作物使用料金 (2025 年分)		30,332
利息		3,291
一般会計より		1,000,000
計	¥	9,080,181

【支出の部】

	¥	0
計	¥	0
2026 年残高	¥	9,080,181

2025 年度 日本シェイクスピア協会

国際交流資金 会計報告(2026.3.31)

【収入の部】

前年度繰越金	¥	
(国際交流フェローシップ以外)		1,927,314
(国際交流フェローシップ)		4,821,044
利息		
(国際交流フェローシップ以外)		257
(国際交流フェローシップ)		2,099
計	¥	6,750,714

【支出の部】

	¥	0
計	¥	0
2026 年残高	¥	6,750,714

2025 年 日本シェイクスピア協会懇親会費

会計報告(2026.3.31)

【収入の部】

前年度繰越金	¥	56,059
利息		46
懇親会費		
(事前申し込み)		215,000
(当日申し込み)		90,000
計	¥	361,105

【支出の部】

会場・ケータリング料金	¥	280,000
振込手数料		330
計		280,330
2026 年度残高	¥	80,775

日本シェイクスピア基金へのご寄附について

日本シェイクスピア協会では、円滑な事業運営や新規事業の推進のため、ご寄附をお願いしております。

2026年3月1日から8月31日までに皆様から頂戴したご寄附の総額は30,000円となりました。ご寄附を賜りました皆様への感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。

寄附者名簿

(会員:50音順) 蒲池美鶴様、関場理一様

国際交流フェローシップ募集のお知らせ

審査時期は4月、10月の年2回ですが、応募要件に記されている通り、参加を予定している学会の開催日より2か月前の応募であれば、審査の対象となり、さかのぼっての支給となる場合もあります。詳細については当協会のホームページをご覧ください。

日本シェイクスピア協会 X（旧 Twitter）について

日本シェイクスピア協会の X（旧 Twitter）アカウントでは、ホームページ掲載情報の告知や学会時のプログラム等に関する情報提供、協会の活動に関するお知らせを、協会会員ならびに一般向けに発信しております。協会ホームページとあわせて、ぜひご覧ください。

Notice Board

◆ 訃報。会員の川井万里子氏が 2026 年 2 月 1 日に逝去された。1938 年生まれ。東京経済大学名誉教授。著書に『「空間」のエリザベス朝演劇 劇作家たちの初期近代』、*Aspects of the Origin of Being Modern* など。翻訳に『ビュッシー・ダンボア』、『アーケイディア』(共訳)など。

◆ 2026 年 3 月 13 日 *Shakespeare Newsletter* 2024 (通巻 Vol.65), No.2 を刊行。

◆ 2026 年 3 月 25 日 *Shakespeare Studies*, Vol. 64 刊行。

◆ 同日 *Shakespeare Journal*, Vol. 12 (通巻 Vol. 65) 刊行。

◆ 2026 年 4 月 18 日 2025 年度会計監査 (立正大学品川キャンパス)。

◆ 2026 年 4 月 26 日 第 1 回定例委員会を開催(日本女子大学目白キャンパス)。日本シェイクスピア協会奨励賞選考委員会については、今回は選考対象とする論文の推薦がなかったため開催されず。委員会の審議事項は以下の通り。1)2025 年度事業報告及び 2026 年度事業計画について、2)2025 年度決算報告及び会計監査報告、3)2026 年度予算案、4)2026 年度日本シェイクスピア協会委員会体制及び委員会日程、5)事務局業務の一部委託および会員管理・会費納入システム導入について、6)国際フェロシップについて 7)その他。

◆ 2026 年度会長・委員業務分担・監事その他は以下の通り

(会長)佐藤達郎

(総務)伊澤高志[事務局長]、松田幸子[財務]
(学会)李春美(チーフ)、近藤弘幸、団野恵美子、松山響子

(*Shakespeare Studies*) 阪本久美子(チーフ)、
Daniel Gallimore、木村明日香、栗山智成

(*Shakespeare Journal*) 小林潤司(チーフ)、竹山友子、土井雅之、松岡浩史

(行事)松山響子(チーフ)、近藤弘幸

(ホームページ)土井雅之

(監事)篠崎実、冬木ひろみ

(*Shakespeare Newsletter*) 総務

◆ 2026 年 4 月 26 日 2026 年度日本シェイクスピア協会総会を開催(日本女子大学目白キャンパス)。五十嵐博久氏が議長に選出されたのち、以下の議題について審議が行われ、委員会から提出された議案が承認された。1) 2025 年度決算報告について、2)2026 年度予算案について、3)2025 年度事業報告及び 2026 年度事業計画について、4)事務局業務の一部委託および会員管理・会費納入システム導入について、5)その他。

◆ 2026 年 4 月 26 日 2026 年度シェイクスピア祭を開催(日本英文学会との共催で、日本女子大学目白キャンパスにて開催)。詳細については本文記事を参照。

◆ 訃報。会員の原英一氏が 2026 年 5 月 14 日に逝去された。1948 年生まれ。東北大学名

誉教授。著書に『〈徒弟〉たちのイギリス文学小説はいかに誕生したか』、『カズオ・イシグロ、沈黙の文学』など。共編著に『ゴルディオスの絆 結婚のディスコースとイギリス・ルネサンス演劇』、*Dickens in Japan: Bicentenary Essays*。

◆訃報。会員の小田島雄志氏が 2026 年 6 月 8 日に逝去された。1930 年生まれ。東京大学名誉教授、東京芸術劇場名誉館長。1973 年から 1980 年にかけて白水社版『シェイクスピア全集』を刊行し、シェイクスピア 37 戯曲の個人全訳を成し遂げた。ほかにチェーホフ四大戯曲、エリ

ザベス朝演劇をはじめとする翻訳や、著書多数。芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、文化功労者。

◆ 2026 年 7 月 4 日 2026 年度委員選挙候補者推薦会議をオンラインにて開催。11 名の候補者を決定。

◆ 2026 年 7 月 5 日 第 2 回定例委員会(チーフ会議)を開催(オンライン)。審議事項は以下の通り。1) 研究発表応募の判定、2) セミナー・メンバーの確定、3) その他。

◆ 2026 年 8 月 31 日 大会プログラムを刊行。

◆ 2026 年 9 月 11 日 *Shakespeare Newsletter* 2026 (通巻 Vol.66), No.1 を刊行。

日本シェイクスピア協会賛助会員名簿（五十音順）

板橋演劇センター

Edition Synapse (Routledge Editorial Liaison)

株式会社 研究社

株式会社 大修館書店

SHAKESPEARE NEWSLETTER

日本シェイクスピア協会会報

2026 (通巻 Vol. 66 No. 1)

	2026 年 9 月 11 日発行
編集	日本シェイクスピア協会
発行人	佐藤 達郎
発行所	東京都文京区目白台 2 丁目 8-1 日本女子大学文学部英文学科 佐藤達郎研究室内
	日本シェイクスピア協会
印刷	日本シェイクスピア協会
	© 日本シェイクスピア協会 2026